

「ホツマツタ工」は古代最大の英雄ヤマトタケルの遺言に従い、父の景行天皇に献上された、縄文時代から3世紀初め当時までの、古代日本人の哲学・文化・歴史を詳細に、驚くべきことに全て格調高い五七調の表題古代文字で記された、8世紀初めに書かれた古事記・日本書紀の倍の記述容量を持つ壮大な叙事詩です。 ヤマトタケルの葬儀をおこなったオオタタネコ※が編纂しました。(前半部は4代前祖先のフシミカタマが編纂)

※10代崇神～12代景行天皇に仕えた三輪氏の祖、奈良県オオタタネコ神社(若宮社)に祭られています。
※今上天皇は125代になります。 ◎ホツマ(**田****マ****ツ**)はマコトの意味です。

日本の天皇が世界で類を見ないほど長く権威を保ち続けているのは何故なのか? 常識を超える長寿の天皇の記載は何故なのか? 太古からの神道的宗教観に仏教の受容が容易だったのは何故なのか? などさまざまな素朴な疑問の答えや、普段気がつかない、五七五七七の31音でなく「君が代」の32音の歌に静かな落ち着き感じる理由など、”なるほど”と腑に落ちる答えや、現代に繋がる自然を敬う感性や職人を尊ぶ考え、祭りの始まりなど、日本の起源が全く矛盾なく流れるように歴史の記載のなかで語られています。

縄文・弥生の私達の祖先は、宇宙を銀河系のようなウズと認識し、地球が丸いことを知っており、五臓六腑の人体の構造を知っており、言語に霊的な力を感じながら生活し、絹の服でおしゃれをし、品種改良をおこない、養子制度、刑罰のきまりなどの社会制度があり、私達が一般的に考えているよりはるかに高度な文明を持っていました。

古事記・日本書紀には不自然・連続性のない部分があることは以前から指摘されていました。例えば記紀における(鰐)ワニの不自然な記述においては、ホツマツタ工に記述されている(タマ)ワニ=縄文時代の”帆をもった高速船”の意味を”動物”として誤訳していることで不自然な記述の説明ができます。

※人力で櫂を漕ぐ船を(マ)カモ、大型船を(マ)カメと用途によって区別していました。
※対馬において現代では大型船をワニ、小型船をカモとよぶことがあります。

また、歴史学界では記紀には2代綏靖天皇から9代開化天皇までの業績が記されていないので、「欠史八代」と呼び架空の創作された天皇であるとしていますが、ホツマツタ工ではそれぞれの天皇がどのような方であったかが詳細に記されています。

ホツマツタ工は1966年に神田古書店で3章のごく一部が発見されてから、現在では40章完本が国立公文書館などで4つ見つかっています。最も古い写本は江戸時代に、フシミカタマ78代の子孫である三輪容聡による代々家宝として引き継がれた写本で、出自が明らかなものです。

にも関わらず、歴史学会では、ホツマツタ工を偽書としています。一番の根拠として、古事記・日本書紀が漢文8母音で記されているので古代日本人は8母音を使用していたはずである。現代とおなじ「あいうえお」5母音で記されているホツマツタ工は偽書であるとしています。

しかし、白村江の戦いで唐に大敗し、古代最大の日本の危機が発生してまもなく、明治維新で急速に西洋化が進んだように、唐に学び相対する必要から漢字の導入を本格的に進め、唐に日本が天皇を拜する文明国であることを示すために漢文で歴史書を急いでつくる必要から、当時漢字に精通していた、朝鮮語の8母音を使う朝鮮渡来人が記紀の編纂に大きく関わっていたことが明らかになってきたからは説得力を失っています。(古事記編纂は新羅帰化人の太安万侶です)

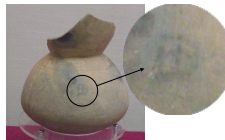
※この理由、根拠はWikipediaで削除されはじめています。



オオタタネコ神社
奈良県桜井市三輪若宮



クシミカタマが祭られている神坐日向神社
奈良県桜井市三輪御子ノ宮



2世紀後半 最古の墨書文字(三重県貝蔵遺跡)

漢字の伝来は6世紀といわれているので田は(タ)ではないと思われます。ホツマツタ工には、ホツマ文字は染めるものと記されているので布等に記されていたと思われますが田(ノ=“土に成つた”の概念)に見えます。